



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



案内する際に活躍する英語表記の地図



城崎の玄関口で

城崎のまちの良さを世界に発信！

城崎の玄関口で、外国人観光客はもちろん、国内の観光客に城崎のまちを案内する元気な女性を紹介します。

河原ひとみさん(24歳)城崎町湯島

市内を訪れた外国人観光客に対して、観光案内を行い、仕事を通じて地域を元気にしているのが河原ひとみさんです。

英語力を養い、活用

河原さんは、生まれも育ちも城崎で、三重県の大学を卒業した後、ふるさとで働きたいという思いから帰ってきました。現在、JR城崎温泉駅正面にある城崎温泉旅館協同組合事務所内のインフォメーションカウンターに勤務しています。

インフォメーションカウンタ―は、平成24年4月17日に開設され、河原さんたち英会話のできる事務員が常駐し、外国人観光客に対応しています。また、国内の観光客に対しても城崎だけでなく、豊岡市全域の観光案内などを行っています。観光案内のほかにも、フェイスブックを利用して英語で城崎の情報(イベントや風景の写真付き)を毎日、タイムリーに発信しています。

河原さんは、同カウンターで働く事を、今まで勉強してきた英語を生かせるというこ

と、また地域の役に立てるとの思いから決めました。

河原さんが英語に興味を持ち始めたのは中学生のとき。ALT(外国語指導助手)の先生と話をしていたことがきっかけでした。そして、大学で英語の講義を受講したことや校内でALTの先生と話をしたり、独学で勉強したりする中で英語力を養ってきました。

現在も英語力を磨くため、英会話教室に通ったり、市内の在住外国人と交流を深めるイベントに参加したりと、なるべく英語に触れる機会を作るようにしています。「生の英語に触れていたほうが勉強になるので」と河原さんは話します。

城崎を知ってもらいたい

河原さんは「城崎の良さは、町並みもさることながら、浴衣でまちを散策できるところです。最近では、まちの中にも少しずつ英語表記の標識が設置され、外国人観光客を迎え入れやすくなっています。より多くの方に城崎の良さを知ってもらいたいです」と話します。

城崎に来る外国人観光客は、アメリカやオーストラリアからの方が主ですが、最近ではアジアからの方も多くなっています。今年4・5月の外国人観光客の数は去年に比べて増えています。

外国人観光客からよくある質問は「チェックインや電車の出発までに時間がある。それまでの時間を有効に使いたいのだが?」。河原さんは「まずお客さんが何をしたいのか、何に興味を持っているのかなど、要望を聞いた上で案内していきます」と話します。

人とコミュニケーションを取る事が楽しい!

「いろいろな国の方とコミュニケーションを取れることが楽しい」と河原さん。日本に初めて来られた方は、不安に思っていることも多いので、「案内する中でそうした不安を取り除いてあげたいです。機会があれば、英語以外の言葉も学んで、多くの方に城崎の良さを知ってもらい、『城崎に行ってみよう』と思ってもらえるようにこれからも頑張りたいです」と語っています。

ま ち の 話 題

城崎温泉ロープウェイ開業50周年記念イベント
城崎の魅力 空から再発見

5月25日、城崎温泉ロープウェイ開業50周年記念イベントが開催されました。当日は、記念式典の後、乗客先着200人に記念品が贈られ、乗車料金の割引サービスが終日行われました。

ロープウェイは、大師山の山麓駅と山頂駅の往復。片道7分の空中散歩です。見上げると輝く新緑、眼下は温泉街と水をたたえた円山川、まるで絵のよう。山頂ではフルートコンサートや餅つきが行われました。

6月8日と16日は、このロープウェイの発案者・太田垣士郎さんゆかりの映画「黒部の太陽」の上映会が開催されました。



▲品数豊富な巨大フリーマーケット

5月26日、県立但馬ドーム(日高町名色)でTAJIMADOMEフェスティバルが開催され、多くの人でにぎわいました。ステージでは、弾き語り、楽器演奏、ダンス、歌など、数々のパフォーマンスが繰り広げられ、客席を盛り上げていました。巨大フリーマーケットでは、100店以上が軒を連ね、来場者は品定めをしたり、掘り出し物を見つけては喜んでいました。ニュースポーツ体験コーナーで体を動かして、食べ歩きコーナーで地元食材を堪能する。普段と違う姿を見せたドームで、大人も子どもも充実した一日を過ごしました。

TAJIMADOMEフェスティバル2013
開館15周年のドームは熱気マンマン!



▲大師山山麓駅からロープウェイに乗る乗客

笑顔の輪

腕を振るたび銭の音!?

ひまわりの会(口高)

「銭太鼓(民俗的リズム楽器)を駆使し、ステージで輝きを見せている「ひまわりの会」の皆さん。日高町道場の女性12人で構成されています。結成は平成14年。きっかけは、敬老会のお手伝いをして

いた女性たちが余興をすることに。銭太鼓を教わったことから。今は、衣裳や振り付けなど、役割分担し、創作ダンスさながら、毎年2曲、演歌や民謡、懐メロなどに挑戦しています。原則、練習は月に2回。銭太鼓は「銭の鳴る音」が特徴で、踊りの伴奏に使用します。座ったまま演じるため、派手さがない分、上半身に変化を付け、いかに表現するか、見せ方に工夫を凝らします。



▲ステージを降りても和気あいあい

の輪も広がり、とても良い関係です」と話します。この会は、日高の夕べや日高夏祭り、但馬ドームフェスティバル、大石りくま祭りなどにも出演し、練習の成果を披露しています。反面、「活動の幅を広げるため、発表する場が欲しい。どのイベントにどうすれば出演できるか、その術を知らない」との本音も…。

話すメンバー全員が銭太鼓を楽しんでいて、公演後や年末の打ち上げも大いに盛り上がりつつあるとか。「今後、若い方も加入してもらい、一緒にパフォーマンスしたいし、但馬地域の他グループとも交流してみたい」と好奇心も旺盛!

今日もどこかで銭の触れ合う音が聞こえてきます。

代表の谷口明子さんは「小学生のかわいい仲間も加わり、会場を和ませています。仲間

を凝らします。